

第 67 回 入学式 式辞

2021. 4. 5 学長 西内みなみ

第 67 期生の皆様、桜の聖母短期大学へのご入学おめでとうございます。

1955 年に開学した本学は、皆様と共に、67 年目の春を迎えています。

聖母マリア、創設者聖マルグリット・ブールジョワと共に、桜の聖母短期大学は、皆様のご入学を心から歓迎しています。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大により入学式は実施できず、国の緊急事態宣言と県の緊急事態措置により、授業の開始が 1 か月遅れました。

今もって感染拡大が収束しない中、本学は様々な感染予防の対策を講じて、学生の皆さまをお迎えしています。短大構内への出入り口を一個所にし、検温できるサーマルカメラを設置しています。教室の出入り口にはアルコール消毒液を置き、手すりやドアノブ等は朝と夕に 2 回、業者が消毒しています。各教室は人数制限をし、クラス分けをして三密を防いでいます。教室での飲食はランチを食べる教室を限定し、学生ホールでは 1 テーブル 1 人で食べる工夫もしています。

こうした細心の注意を払いつつ、本学がこれまで大切にしてきた実践的な学びを、「新しい生活様式」を取り入れながら、学生の皆さまに提供し続けています。

学生の皆さまの代表である学生会も取り組んで下さり、昨年度 10 月 30 日のハローウィンや、11 月 3 日の「あかしや祭」も中止せず、様々な工夫をこらして実現して下さいました。ピンチをチャンスに変える学生の皆さまの創意工夫に、たくさんの元気と勇気を頂きました。

三密防止という制約の下で感染を避けながら、限られた条件の中でも、「まなび」と「つながり」を実践していくことを本学は大切にしています。皆さまにとっての 1 年は非常に貴重な時間であり、その時間を実りあるものとしていくことが本学には求められています。パンデミックという深刻な危機に直面した今こそ、震災の時のように「他者のために生きる」という人間の本质に立ち返えることが求められています。

短大の正面玄関ホールには、世界に一つしかない美しいステンドグラスがあります。

そこに描かれているのは、先ほど朗読された聖書の場面です。イエス・キリストを身ごもっている聖母マリアが、山路を越えて、遠い親戚のエリサベトをご訪問したという場面です。この「ご訪問の聖母マリア」は、桜の聖母短期大学にとって、最も大切にしている「建学の精神」を表わしたシンボルです。

聖母マリアは、たぶん 10 代でしたから、皆様と同じ年ごろの若い女性でした。

赤ちゃんを授かり妊娠していました。自分も妊娠して、たいへんであったにもかかわらず、親戚のエリサベトが高齢で妊娠したと聞き、心配して、遠く離れた山里までお見舞いに行きました。そして、2 人が出会った場面、この聖書の場面が、桜の聖母短期大学の正面玄関にある美しいステンドグラスに描かれています。

そこに描かれた「ご訪問の聖母マリア」の精神、

それは、心配な方がいたら、妊娠している我が身を省みず、ご訪問する、愛と奉仕に生きる聖母マリアの精神です。まさに「他者のために生きる」という人間の本质を現しています。

この「ご訪問の聖母マリア」の精神のもと、桜の聖母短期大学の設置母体である修道会が創設されました。

1657年、聖マルグリット・ブールジョワという一人の修道女が、フランスから、大西洋を船で2、3か月もかけて、未開地のカナダに、出かけて行き、多くの子どもたちや大人たちに教育を授けました。聖マルグリット・ブールジョワの設立した修道会は、フランス語で「コングレガシオン・ド・ノートルダム」日本語に訳すと「聖母マリアの修道会」といいます。この修道会は、未開地だったカナダの発展に大きく貢献しました。聖マルグリット・ブールジョワは、カナダの方なら誰でも知っているシスターであり、聖人であり、カナダでは建国の母として敬愛されています。そして、何よりも、優れた教師でした。

カナダの建国に大きな貢献をした聖マルグリット・ブールジョワの修道会が、1932年、約90年前、5人のシスター達を日本に派遣して下さいました。それが、東京でも、仙台でもなく、この私たちの街、福島市に、です。これも奇跡です。

5人のシスターは、福島市に修道院を開設され、まず、幼稚園を、そしてその子たちが進学する小学校を、中学校を、高等学校を次々と開設されました。そして、その高校生たちに高等教育を受けさせたいという願いから、1955年に開設された学校が、この桜の聖母短期大学です。

フランスから派遣された聖マルグリット・ブールジョワが、カナダで愛と奉仕に生きたように、カナダの修道会から派遣されたシスター達も、福島子どもたちや大人たちのために、愛と奉仕に生きて下さいました。その歴史と伝統によって、今日、私たちは、67期生の皆様をお迎えする事ができるのです。

桜の聖母短期大学の教職員は、必要とされているところにはどこにでもいく、「建学の精神」に謳われている「愛と奉仕に生きる」聖母マリアや聖マルグリット・ブールジョワのようでありたいと努めています。

そして、2年間で皆様を、「愛と奉仕に生きる良き社会人」として社会に送り出そうと、私たちは、最善を尽くす事を、新入生の皆様にお誓いします。

そのために、様々な授業や学校行事を準備しています。本学の授業は、しっかりと知識や技術、そして豊かな教養を身につけ、「ご訪問の聖母マリア」のように、創設者聖マルグリット・ブールジョワのように、様々な地域やコミュニティ、海外にも出かけていきます。教室と同じく、地域や世界が、皆様の学びの場です。このような学びを通して、皆様は、1万人を超える卒業生がそうであるように、必ず「愛と奉仕に生きる良き社会人」として、美しく成長されます。

新型コロナウイルスと共に生きる生活は避けることができないでしょう。私たちは、この苦難を乗り越えることができると信じています。私たち教職員と共に『新しい生活様式』を身につけ、感染予防しつつ、桜の聖母短期大学ならではの学びによって、希望を持って最善を尽くしていきましょう。

あなたの夢を桜の聖母短期大学で実現し、あなたが、あなたのなりたい自分になり、愛と奉仕に生きる良き社会人として母校を巣立つ日まで、私たち教職員一同は、いつも皆様の傍らにいて支援させて頂きます。

67期生の皆様とそこご家族に、そしてこの桜の聖母短期大学に集うお一人おひとりに、

主イエス・キリストと聖母マリア、聖マルグリット・ブールジョワの豊かな祝福をお祈りして、式辞といたします。